

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-12-19

# APM news 114

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



第26回美術館大学 10月11日(土) pm3:00~4:30/受講者:52名/講師:柏大輔、秋山孝

「ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレについて」

〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233



開催中の企画展、多摩美術大学大学院イラストレーションスタディーズ「メッセージイラストレーションポスター」展6の出品者の1人である柏大輔氏(多摩美術大学博士課程)がこの度、第26回ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ2014(チェコ)にてブルノ市長賞(大賞は該当者無しだった為、実質この年で最も優秀な賞)及びビジターズアワードの2賞を受賞したことを記念し、館長・秋山孝と共に同ビエンナーレについて講じていただいた。秋山館長も1986年に同ビエンナーレでアルティア賞を受賞している。

ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレは、1964年に世界で初めて開催された、最も歴史のあるビエンナーレである。また、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ(ポーランド)とラハティ国際ポスタービエンナーレ(フィンランド)と共に、世界3大ポスタービエンナーレとされている。

第26回の当ビエンナーレは「教育と学校」をテーマに、学生に焦点を当てた内容であった。柏氏は、3000点にも及ぶ「無意識による描画」技法によるイラストレーションの作品集と、そこからイメージを引用し、展開したポスター作品を出品した。彼の作品群は、全てがナンバリングによって整理されており、どの作品から派生したポスターであるという過程がわかるようになっている。その一連のプロセスが評価されたのだろうと、柏氏は語った。その話を聞きながら、ひとつひとつ確実に積み上げていくという、館長の仕事のスタンスと通じるものがあると感じた。

彼は「無意識の表現から意識の表現への展開によるイラストレーションの研究」をテーマに日々研究を重ねている。オートマティスム技法によって無意識に描き出した形から、具象物を描き出し、コミュニケーションツールとして展開する。その上でオートマティックに描く「描画」と、そこから具象物を描き出す「描画」は異なる行為であると考え、その理論化を試みている。現在は、オートマティスムと無意識の関係性を証明することに苦戦していると語った。

柏氏の話の中には「真実」という言葉が幾度か登場した。研究は、彼にとっての「真実」を追求することである。そして、その「真実」を広く一般的な事にするを目指しているという。館長からのするどい質問に答える中で、自分の挑む課題に対し苦悩する彼の姿が見えた。そんな彼へ、師であり良き理解者である館長は、「行き詰まったら言葉を探そう」という助言をした。言葉でつくるイメージと絵でつくるイメージには誤差が生じる。その事を理解する事が重要であると語った。また、「誰にも理解されなくてもいい」と考える、気持ちに余裕を持つことを勧めた。講演中に2人で語り込む場面もあり、良い師弟関係の姿が見えた。柏氏にとっての「真実」を証明できた時、作品がどう進化するのがとても興味深い。彼の更なる活躍に期待したい。(たかだみつみ・APM学芸員/APM公式ホームページより抜粋)